

## 兵庫から持参したドローンで 災害査定業務をサポート

兵庫県丹波市くらしの安全課主幹  
兵庫県丹波篠山市経営企画課主査

柴原洋平さん  
石原卓人さん

——兵庫県から駆けつけていますが、むかわ町とのつながりを教えてください。

柴原 兵庫県中央東部に位置する丹波市ですが、恐竜化石をきっかけとした自治体連携を全国で行っています。その恐竜連携協定を結んでいるむかわ町が被災したため、支援を行いました。

石原 丹波篠山市は同じく兵庫県の中央東部に位置しており、丹波市に隣接しています。丹波市や熊本県御船町、むかわ町の4自治体（発災時）で協定を結んでいたため、我々も応援に行きました。

——現地入りした時の状況を教えてください。

柴原 第3陣として現地向かいました。むかわ町役場に到着すると、自衛隊、ボランティアセンター、報道機関、全国からの

応援などたくさんの方がいて、庁舎内が非常ににぎやかな状況でした。竹中町長へ着任報告に行った際には、私たち応援職員一人ひとりの手を握り、力を貸してほしいと力強く言われたことが印象的です。配属は穂別地区であり、再び移動して活動を開始しました。

石原 同じく第3陣として現地向かいました。車で移動しむかわ町に入ると、町のいたる所で建物の倒壊や道路のひび割れなどが見られ、被害の大きさを実感しました。現地はあわただしい状況ではありませんが、第3陣ということもあり、引き継ぎを受けてスムーズに活動に入ることができました。私も穂別地区で活動を開始しました。

案したことがきっかけでした。平成26（2014）年の丹波市豪雨災害や平成30（2018）年の西日本豪雨の際には、ドローンを活用して災害情報を収集することがあります。同じようにむかわ町でも実施することになったので、現地に資材を持ち込みました。

——実際に現地でドローンを活用してみたいかがでしたか？

柴原 まったく土地勘がなく、計画的に撮影を進めることに苦慮しました。バッテリーの都合上、飛行時間も限られています。途中から同じく応援に来ていた丹波篠山市の方々の力を借りて、現地誘導などを担っていただき、効率的に撮影を進めることができました。

石原 ドローンの操作はそれほど難しくはないものの、路上で撮影を行うにあたり、安全を確保するために両市派遣職員の4名態勢で臨みました。市街地の被害や山間部のがけ崩れなどの状況も空撮し、災害復旧に活用していただけたようなデータを取ることができたと思います。

——現地で活動するにあたってどのようなことを心がけましたか？

柴原 やはり、ドローン撮影時の安全確保ですね。万が一墜落して、人に怪我をさせたり家屋に損傷を与えることだけは絶対にないよう注意を払いました。

石原 住民の方へのケアももちろんですが、むかわ町の負担を少なくできるように心がけました。竹中町長をはじめ担当職員の方々がアットホームな雰囲気をつくっていただいたのが嬉しかったです。

——最後に、復興に向かうむかわ町へメッセージをお願いします。

柴原 私たちも平成26（2014）年の豪雨災害から、地域一体となって復興に取り組んでできました。むかわ町もこれから復興に向けて、大変だと思えます。ですが、むかわ町にはほかにない素晴らしい地域性や観光資源がたくさんあります。それらを大きな原動力にして復興を成し遂げられるよう心から応援しています。

石原 当時、どれだけお力になれたかわかりませんが、少しでもむかわ町の支援に携わることができて、嬉しく思います。滞在

——現地入りして、どのような業務を行いましたか？

柴原 災害査定を受ける被害現場、危険箇所、被災した町の様子などをドローンで空中撮影をしました。また、災害ごみの処理作業も行いました。

石原 期間の前半は、各地から届けられた支援物資の仕分けや、大量に運ばれ山積みになっていた家電ごみの分別を行いました。家電ごみの処理は体力がいる作業で、多くの人手が必要だと感じました。そして後半は、丹波市の方々が持参したドローンでの空撮作業の補助にも当たりました。

——むかわ町ではドローンをまだ活用していなかったそうですね。

柴原 実は、先発隊がドローンの活用を提子、町職員の皆さんの温かさなどを、今でも鮮明に覚えています。震災から復興され、より発展されることを心から願っています。



第3陣で現地入りした兵庫県丹波市と丹波篠山市職員（左から2番目が柴原さん、右から2番目が石原さん）

## 支援を受けた恩返しとして

### 熊本地震の経験を還元

熊本市御船町商工観光課長

鶴野修一さん

— 熊本県から駆けつけていますが、むかわ町のつながりをお教えください。

兵庫県の丹波市や丹波篠山市と同じく、御船町も恐竜連携協定を結んでいました。むかわ町が被災したため、すぐに支援に向かいました。

— 御船町は熊本地震で甚大な被害を受けた経験がありますが被災地に向かう時はどのような気持ちでしたか？

北海道の大地震をテレビで見ても、熊本地震当時を思い出して、体が震えました。町長から第1陣として派遣の指示があった時には、これまで応援を受けてきた側として恩返しをしたいと思い、使命感に燃えて現地に向かいましたが、飛行機が欠航して急ぎよ乗り継いだ青森からのフェリーの中で考える時間がふとできた時、熊本地震のことが記憶によみがえり、正直怖くなりました。

— 被災自治体職員としての貴重な経験がありましたか、現地入りしてどのようなことをむかわ町に伝達しましたか？

現地入りしてすぐに行ったのは災害状況の把握と、これから必ず必要になる避難所運営、支援物資対応、災害ごみなどの災害業務のレクチャーでした。また、災害時には情報が錯綜するため、情報発信の重要性を伝え、災害情報が更新されていなかった町のHPと防災無線での情報発信を指導しました。

— 最も貢献されたのは災害証明書の発行業務と聞きました。

災害証明の発行は、生活再建関連の支援を受ける際に必要になります。熊本地震当時の反省をふまえ、むかわ町ではスムーズに発行までの支援ができました。御船町でも行いましたが、関係課を横断的に調整するマネジメントチームの発足支援が効果的

であったと思います。

— 最後に、復興に向かうむかわ町へメッセージをお願いします。

これからの復興への道のりは険しいものがあるかもしれませんが、御船町も復興途中ですので、恐竜が結んだ縁を大切に、手を取り合っ  
共に復興への歩みを進めましょう。業務に当たる皆さんもお身体を大事にご自愛ください。



町職員に災害証明の発行業務を教える鶴野さん

## 姉妹都市の思いを胸に

### 町災害対策本部の運営を支援

富山県砺波市上下水道課長

菊池紀明さん

— 富山県から駆けつけていますが、むかわ町とのつながりをお教えください。

砺波市はチューリップで有名な町ですが、合併前の旧庄川町（現砺波市）と旧鶴川町（現むかわ町）が姉妹都市提携を結び、合併した今もその関係が続いております。その姉妹都市であるむかわ町が被災したため、すぐに応援に駆けつけました。

— どのような行程でむかわ町に向かいましたか？

飛行機が飛ばない恐れがあったので、発災の翌日にフェリーに乗り、その次の日にむかわ町入りしました。実は旧町時代の平成14（2002）年に姉妹都市提携で1年間派遣されたことがあり、まさかこんな形で再びむかわ町に来ることになるとは思ってもいませんでした。そのむかわ町がどうなっているのか不安な気持ちで8日夜にむ

かわ町役場に到着。執務室がぐちゃぐちゃで、職員は疲弊しており、胸が詰まる思いをしました。

— 現地入りして、どのような業務を行いましたか？

災害対策本部の運営支援をしました。錯綜している情報を整理し、インフラの被災状況や避難所状況、不足物品などを適切にホームページやSNSで発信し、報道機関にも随時情報提供をしました。むかわ町が早期に復旧するためには全国から支援をいただくことが必要であると思い、情報を発信し続けることに気をつけていました。また、先発隊の役割として、砺波市からの後発隊（保健師など）の受け入れ調整も行いました。



富山県砺波市の「むかわ町復興応援」マーク



災害対策本部運営支援を行う富山県砺波市職員（右が菊池さん）

— 最後に、復興に向かうむかわ町へメッセージをお願いします。

被災された方やむかわ町職員をはじめ、たくさんの方々が大変な苦勞をされてきたと思います。我々砺波市の応援職員は、ほんのわずかしかお手伝いをするのができませんでしたが、砺波にいる今もむかわ町の復興を心から願っております。